

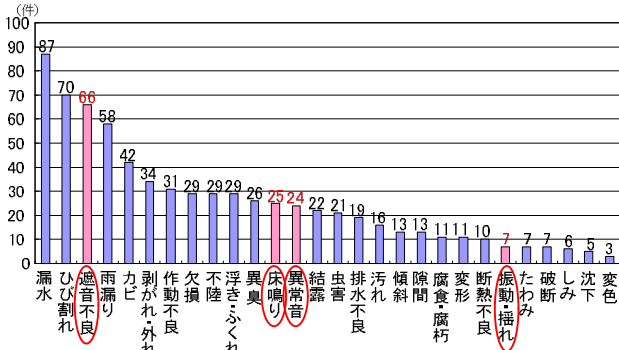


音環境問題

【紛争に関する各者の関係性】

住宅の音環境性能に関して、消費者の関心・要求は高まっている。ゆえに、住宅の性能が上がりつつある近年でも音環境に関するトラブルは絶えない。→『音環境問題』

【不具合事象相談件数】

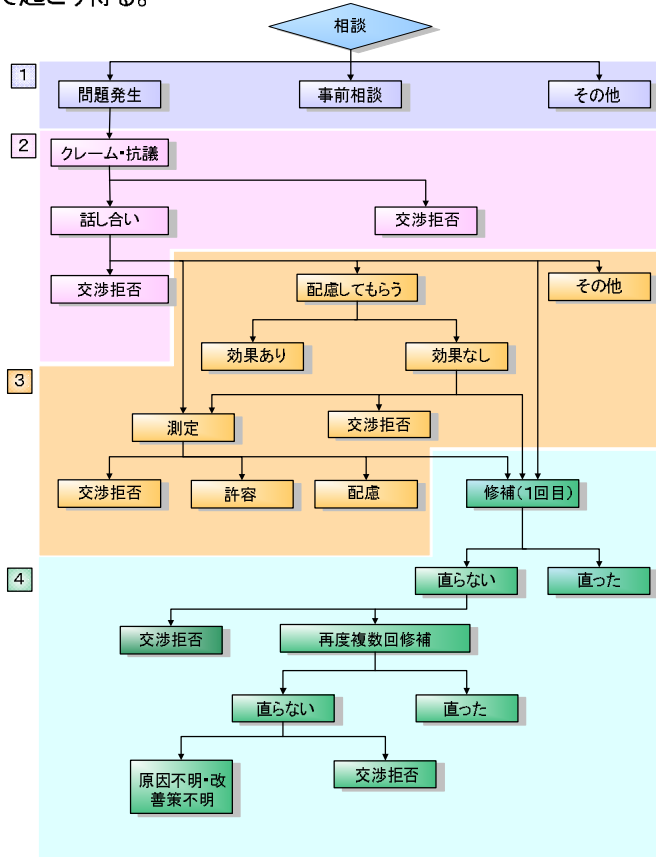


(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センター相談統計年報©2007より 共同住宅の不具合事象件数

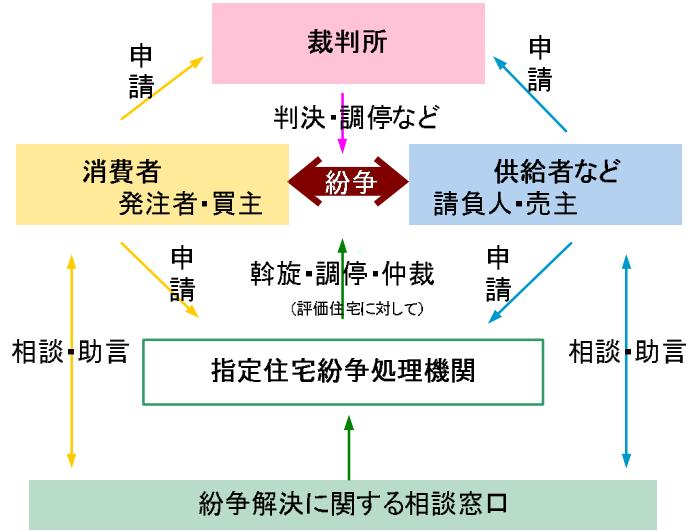
上図より・・・音に関する相談も決して少なくない!!

【問題の進行状況】

住宅購入時・入居後、音に関する様々なトラブルが発生する。例えば・・・これらのトラブルは下図のようなあらゆる状況で起こり得る。



- 1 事前相談・問題発生直後 2 協議中
3 測定・配慮 4 修補



テーマの内容は？

- どうすればトラブルは無くなるのか
● トラブルが起きたら何をすればいいのか
● 裁判になったら重要なことは何か



↑のようなトラブル解決策を見つけること!!

【どうすればトラブルは無くなるのか】

- ・トラブルの原因となる音源とは？
・相談の内容は？
・共同住宅と戸建住宅ではどちらがトラブルになりやすい？
・・・のようにデータを集計することでトラブルの実態が見えてくる

【トラブルが起きたら何をすればいいのか】

- ・トラブル発生後、消費者はどんな行動をとる？
・問題の深刻化はなぜか？
・第三者機関の介入まで何年経った？
・・・のように実際の消費者がとる行動パターンを分析して
“どうするのがいちばん良いか”トラブル予防策を見つける



【裁判になったら重要なことは何か】

- ・音の基準値は何の音でも一緒なの？
・苦情は言わない方がいい？
・被害者の過失ってあるの？
・・・のように音裁判がどのように進められているかを知り問題点をあげて、はっきりとした法律上の基準を作る

今後、音裁判における法規制として当事者間の過失割合、損害賠償金額の制定、受忍限度の解釈統一化、さらに許容水準の設定、技術的対処方法の具体化などを定めることを目的としている。